

イメンダカプセル

－現状と今後の展望－

イメンドの対象となりうる市場

入院化学療法

年間 約80万* 件

外来化学療法

年間 約115万* 件

※平成21年度 第3回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会資料

がん化学療法の件数

年間 約200万件

がん化学療法施行患者が 苦痛と感じる自覚症状の順位

順位	1983年* セロトニン受容体拮抗薬発売前	1995年** セロトニン受容体拮抗薬発売後
1	嘔吐	悪心
2	悪心	脱毛
3	脱毛	嘔吐
4	治療に対する不安	疲労感
5	治療時間の長さ	注射に対する不快感

セロトニン受容体拮抗薬発売後も抗がん剤投与による悪心・嘔吐は、いまだ患者の苦痛度順位のトップ3にランクインされ、コントロールが不十分である。

*Coates A et al. Eur J Cancer Clin Oncol, 19 : 203-208,1983 (一部改変)

**de Boer-Dennert M et al. Br J Cancer, 76 : 1055-1061,1997 (一部改変)

国内の制吐療法の現状

標準的な制吐療法

セロトニン受容体拮抗薬＋ステロイド(デキサメタゾン)

2剤併用が一般的(状況に応じて+ α)



悪心・嘔吐のコントロールが不十分
(特に遅発性の悪心・嘔吐)

イメンド[®]カプセルとは・・・

- 急性期の悪心・嘔吐のみならず既存の薬剤でコントロール不十分であった**遅発性の悪心・嘔吐**に対して優れた有効性をもつ。
- 日本初のニューロキニン1(NK₁)受容体拮抗薬である。
- 海外では既に69カ国で承認されている。(2009年3月時点)
- 世界の主要な制吐療法ガイドラインで推奨されている。
 - 米国臨床腫瘍学会(ASCO)ガイドライン
 - 国際癌支持療法学会(MASCC)ガイドライン
 - 米国国立包括癌ネットワーク(NCCN)ガイドライン など

イメンドロ座獲得状況

口座獲得計画	目 標	現 状 (2010年4月末現在)
都道府県がん診療 連携拠点病院	51軒 (22年3月末)	51軒 (100%)
地域がん診療 連携拠点病院	324軒 (22年5月末)	292軒 (90%)
化学療法実施の 300床以上病院	521軒 (22年9月末)	439軒 (84%)
合 計	896軒 (22年9月末)	782軒 (87%)

イメンドカプセルを服用された患者さんの喜びの声

*この薬を服用するまでの化学療法は本当につらかった。
特にシスプラチンを投与されるとすぐに悪心・嘔吐が起こっていた。
イメンドが効いているのか、ゲップで少しウっときただけで**吐き気という程の吐き気は無し**

*いつも通り3日目なら午後からムカムカしてくるのですが、イメンドが効いているのか、**普通に過ごしています。この調子なら来週の月曜は会社を休まなくても済むような気がします**が・・・とは言え、イメンドは今日で終了。明日から2日間はいつものゾフランに戻り、これがどう影響するのかは未知数です。どうか、今のいい感じが続きますように・・・。

*新薬(神の薬！と呼びたい)イメンドで吐き気が抑えられて、これからは何日も吐かなくて良いから**ご飯が食べられる！**

制吐療法ガイドラインにおけるイメンドの位置付け

催吐リスク	ASCO 2006	NCCN 2009	制吐薬適正使用ガイドライン (日本)5月発行予定
高度 (>90%)	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント(イメンド)
中等度 (30-90%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ AC療法 <ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント ■ AC以外 <ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5-HT₃受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント(イメンド)

*：特定の患者【カルボプラチン、シスプラチン(50mg/m²未満)、ドキソルビシン、エピルビシン、イホスファミド、イリノテカン
またはメトトレキサート(250mg/m²以上1000mg/m²未満)によるがん化学療法を受ける患者】の場合

主ながん腫別推定患者数

社内調査

診療科	がん腫	新規患者数	再発患者数
呼吸器	非小細胞肺がん・ 小細胞肺がん	10.5万人	3.2万人
乳腺	乳がん	5万人	1.1万人
消化器	胃がん	11万人	1.8万人
	食道がん(頭頸部)	2.5万人	1.1万人
	大腸がん	14万人	2.8万人
血液	非ホジキンリンパ腫	4.5万人	-
計		47万人	10万人

イメンド 市場育成の考え方

2010年度

2011年度

2012年度

講演会・研究会
学会セミナー企画

制吐療法の実態把握と
ガイドラインの啓蒙

がん専門
看護師・薬剤師の
協力体制

制吐剤の使用実態と
適正使用推進

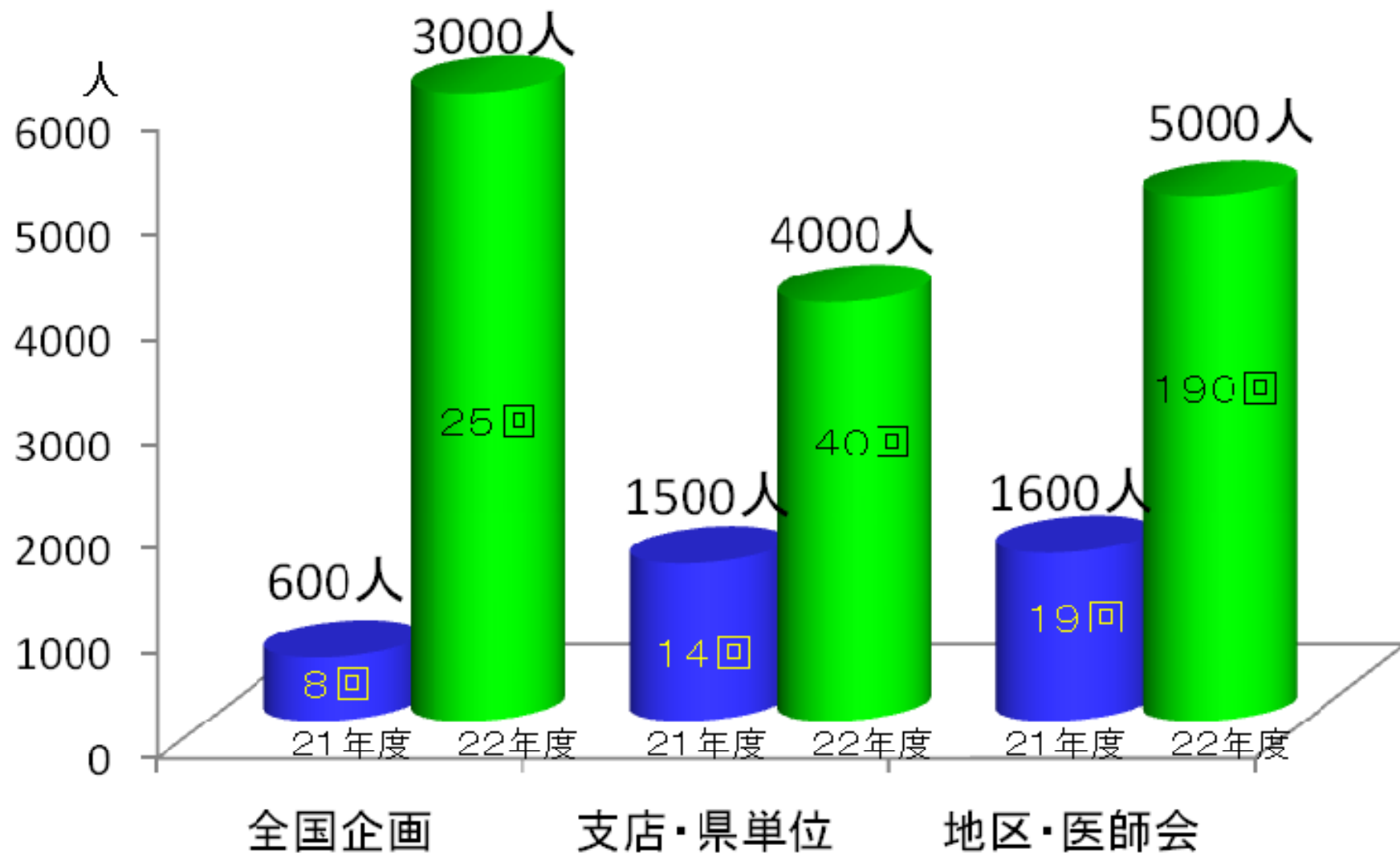
臨床研究テーマの
推進

日本人での
エビデンスの確立

イメント講演会

21年度結果: 33回 3700人

22年度計画: 250回 15000人



イメンドの中期見通し

